



クローズアップ  
CLOSE UP

七夕飾りに願い込めて

7月7日から10日まで、七夕まつりが開催。まちなかが鮮やかな飾りに彩られ、多くの人でにぎわいました。会場には浴衣で七夕を楽しむ外国人の姿も。短冊に願い事を書いて笹に飾るなど、訪れた人は思い思いに夏のひとときを過ごしていました。



臨江閣の建築を知る

耐震補強などのため大規模改修中の臨江閣で、7月16日に工事見学会を開催しました。母妹と共に訪れた桃木小5年の須田宗太郎くんは、「大きな屋根は近くで見るとすごい迫力」と圧倒された様子。見学者は建築構造や瓦の説明に熱心に耳を傾けていました。



「言葉との出逢い」演出

前橋文学館で、企画展「心にふれる手紙展」の一環のリーディングシアターを公演。演目は幼なじみの2人の40年に渡る友情の手紙を題材にしたA.R. ガーニー作「ラヴ・レターズ」。アンディ役を萩原朔美館長、メリッサ役を中村ひろみさんが熱演しました。

いきいき  
まえばし人

八木原 罔明さん・69歳  
日本山岳協会会長  
龍蔵寺町



山への思いどころまでも

エベレストなど数々のヒマラヤの尾根を制した、日本を代表する登山家の八木原さん。日本山岳協会会長を務める登山界の大御所だ。  
山との出会いは中2の時。新設された山岳部に入部し、体力と自信がついた。  
「自分より体の大きな運動部の連中と一緒に登って、バテた人の荷物を運んでやった。優越感があったよね」  
以来55年。ヒマラヤの頂上を目指す中で3度の遭難を経験し、7人の仲間を失った。一線を退き、自らヒマラヤに赴くことはなくなったが、非常勤講師として群馬大生と共に、毎年北アルプスを登る。

「群馬は山が多いけど、ふるさとの山といえばやっぱり赤城山だよ。自分の庭みたいなもんだよ」  
協議会の評議員として制定に関わった今年11日の山の日については「登山や山歩きなどは心にも体にもいい。先人から引き継いだ山の恵みに感謝して後の世代に受け渡す、それを考えるきっかけにしてほしい」と語る。  
登山家として常に頂上を目指してきた。次に目指すのは日本山岳協会の組織の活性化と後進育成だ。山への思いを語る八木原さん。これからもさらなる高みを目指して歩み続けることだろう。

内山英明さんのオクラ



生でもおいしく、丸ごと浅漬けにするのもお勧めですよ

自然豊かな赤城山麓の前橋で、生産者が妥協を許さず、手間を惜しまず作った赤城の恵ブランドの認証品。今回は「内山英明さんの『オクラ』」を紹介します。  
生産者の内山さんは、環境に優しい農業に取り組み農業者としてエコファーマーの認定を取得。堀之下町の広さ15坪の畑で除草剤を使わず、堆

肥などの有機質資材を用いるなど、環境保全型農業でオクラを栽培しています。  
環境に優しい方法で作られた安心・安全な内山さんのオクラは、きれいな濃い緑色をしています。また、オクラのねばねば成分は、消化を促進し、便秘の予防・解消になるといわれています。  
赤城山麓の豊かな大地の恩恵を受けたオクラは、しっかりとした歯応えと滑らかな口当たりが特長。食べた瞬間に芳醇な甘みと深いうま味が口いっぱい広がります。  
「内山英明さんの『オクラ』」は1袋100g、市内の農産物直売所などで9月頃まで販売しています。

赤城の恵ブランド  
内山英明さんのオクラ



問内山さん ☎090-5335-4738